

飲み合わせ(危険です)

今やストレス社会では、飲まずにはいられない薬やアルコール。

ちょっとした落とし穴があります。こんな薬剤との副作用に気をつけましょう。

(服用中はお酒を控えましょう)



(強心剤)

不整脈治療薬とアルコール①



心筋梗塞や狭心症などの不整脈やうつ血性心不全の治療などに効くジゴキシン含有の不整脈治療薬は、心筋を強め、心拍のリズムを調節して、心臓を楽にしてくれる働きがあります。

ジゴキシン含有の不整脈治療薬(強心剤)

- ◎ジゴキシン ◎ジゴシン

ジゴキシン含有の不整脈治療薬服用中にアルコールを飲むと、アルコールによって、ジゴキシンの代謝が悪くなり、ジゴキシンの血中濃度が上がります。そのため、頭痛、めまい、嘔吐などの副作用や頻脈、除脈など、ひどくなると心室ブロックを起こして死亡することもありますので、ジゴキシン服用中は飲酒を控えましょう。

不整脈治療薬とアルコール②



不整脈治療薬
(βブロック剤)

塩酸プロプラノロール含有

塩酸プロプラノロール含有の不整脈治療薬は狭心症や不整脈の治療に有効で、血圧を上昇させる交感神経の働きを抑えて脈の乱れを回復させてくれます。

この薬を服用している人がアルコールを飲むと、アルコールの作用で、塩酸プロプラノロールの体外排出が強くなり、塩酸プロプラノロールの血中濃度が低下してしまいますので、薬の効き目が弱くなってしまいます。

抗血栓剤とアルコール



血栓症や心筋梗塞、脳梗塞、肺梗塞などの治療に用いる抗血栓剤(ワルファリンカリウムを含む)は血液凝固因子の生成を促進するビタミンKの働きを阻止し、血液が固まるのを抑えて、血栓を防ぎます

ワルファリンカリウム含有の抗血栓剤

- ◎ワーファリン
◎ワルファリンク
◎ワルファリンカリウム 等

ワルファリンカリウム含有の抗血栓剤を使用している人がアルコールと一緒に飲んだりするとアルコールによって肝臓のワルファリンカリウムの代謝が抑制されるため血中濃度が上がったり、抗凝固作用が強くなったりします。そのため脳出血や消化管出血が起こりやすく、血が止まらなくなったりしますのでご注意ください。



睡眠薬とアルコール①



バルビツール酸系
催眠鎮静剤の睡眠薬

- ◎イソミタール
◎フェノバル
◎ラボナ

不眠症に悩まされている人に良く効く、バルビツール酸系睡眠薬(バルビタール、フェノバルビタール、ペンタバルビタール、アモバルビタール)は中枢神経に働きかけて、その働きを抑制し、睡眠や鎮静をうながしてくれます。しかし、アルコールは飲まないようにしましょう。

アルコールを飲む前後にバルビツール酸系含有の睡眠薬を飲んだりすると睡眠薬とアルコールの作用が互いに加わって、眠気や鎮静が強まり、意識を失ったり、昏睡状態に陥ったり、まれに死に至ることになりかねません。大変危険です。

睡眠薬とアルコール②

速効性かつ強力でよく効くプロムワレリル尿素含有の催眠鎮静剤はアルコールを飲んだ前後に服用すると、睡眠薬とアルコールの鎮静作用が強まり、中枢神経の働きが過度に抑制され、呼吸機能低下や、意識を失ったり、昏睡状態に陥ったりして、死に至らしめることとなります。大変危険です。睡眠薬を使用するときは禁酒を心がけましょう。

催眠睡眠薬(プロムワレリル尿素を含有)

- ◎ウット